

平成29年12月6日発行（第36号）
 発行者：坂上眞介 編集長：塚田幸平
 所在：東京都品川区西五反田8-3-16
 西五反田8丁目ビル4F
 株式会社市場開発研究所
 連絡先：Tel：03-5436-6222
 Fax：03-5436-6232



特集：若者カップルの会計事情

調査の概要

- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：2017年6月23日～24日
- 調査対象：M.netインターネット調査モニター
1都3県在住／未婚／18～29歳の男女
- 調査数：300名

	学生	社会人 (20～24歳)	社会人 (25～29歳)
男性	50	50	50
女性	50	50	50

■ 調査の背景と目的

■ はじめに

みなさんはデート中のお会計はどのようにしていますか。男性の方が一般的に“稼いでいる”というイメージがありますし、大きく見せたい、見栄を張りたいといった感情から私は「男性が払うべき」と考えております。しかし、近年は男女雇用機会均等法などの法整備や、なでして銘柄の選定といったダイバーシティ経営の推進などが行われています。このような活動から、女性の社会進出や活躍は進み、男女による賃金格差は昔に比べ縮小されています。

そこで、本編では男女格差がなくなりつつある現代の若者がデート中の会計についてどのように考えているのかシーン別に見ていきます。

■ バブル期の価値観

1980年代中頃から1990年代初頭にかけてバブル景気と言われる好景気が日本に訪れました。ご飯を食べて、お酒を飲んで、といったように現代とやっていることは変わりません。ですが、内容は夜景の見える高層階のレストラン、有名なデザイナーが内装を手がけたオシャレなカフェバーなどお金を豪勢に使っていました。さらに、一部の女性は男性を足代わりに使う「アッシー」、食事をご馳走してくれる「メッシー」、プレゼントなど貢いでくれる「ミツグ」といったように呼んでおり、お金は男性が払うものという意識が強い時代でした。

■ 男女平等への転換

バブル期が終わり、男女雇用機会均等法の改正や、男女共同参画社会基本法の制定などで女性の社会進出や所得が徐々に増加していきました。さらに最近では働き方改革や、一億総活躍社会などの施策により男女の格差はバブル期に比べ縮小されています。下の数表は20代に限定した男女での賃金格差です。

・20～24歳

年		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
男性	賃金(千円)	204.4	199.7	199.8	200.7	200.5	200.7	202.5	205.0	209.1
女性	賃金(千円)	190.7	189.8	189.5	190.7	190.5	190.4	192.9	196.6	199.5
男女比(男性=100%)		93.3	95.0	94.8	95.0	95.0	94.9	95.3	95.9	95.4(%)

・25～29歳

年		2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
男性	賃金(千円)	242.8	237.8	236.8	238.5	237.1	236.5	238.2	243.4	245.8
女性	賃金(千円)	214.9	214.1	215.0	215.0	216.7	215.2	218.4	221.5	225.1
男女比(男性=100%)		88.5	90.0	90.8	90.1	91.4	91.0	91.7	91.0	91.6(%)

(出典：厚生労働省「賃金構造基本統計調査」)

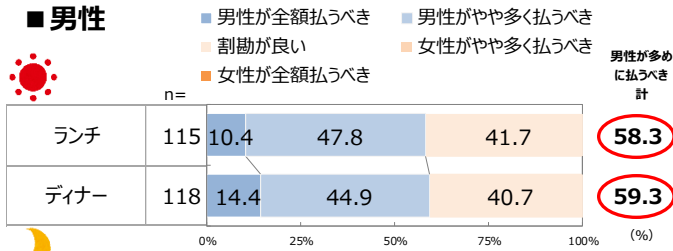
厚生労働省が発表している賃金構造基本統計調査による、フルタイム労働者(非正社員を含む)の月額所定内給与の平均差を性と年代別に見ると、20代前半では男性を100%とした時、女性が95.4%。20代後半では女性が91.6%と出ており、男女での賃金格差はあまり見られません。実際に弊社の給与においても男女で違いはなく、就職情報サイトなどを見ても同様の企業が多数となっています。

では、羽振りの良かった頃と比べて、現代の若者はどのように考えているのか見ていきます。

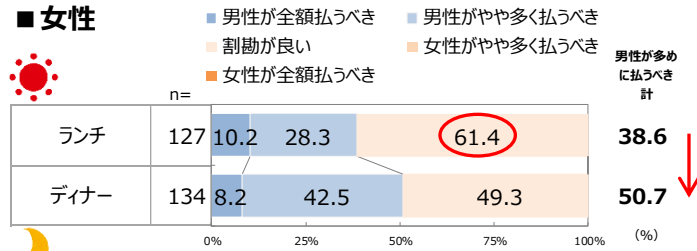
●デート場所別 支払いについての考え方<<飲食>>

デートが“飲食”に関わる場所だと男性は多めに払うべきだと考えている

■男性



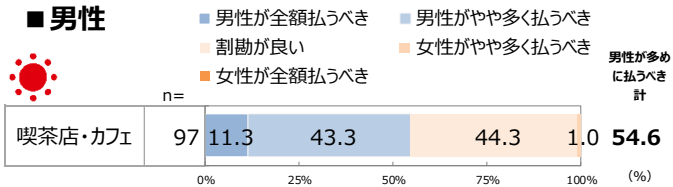
■女性



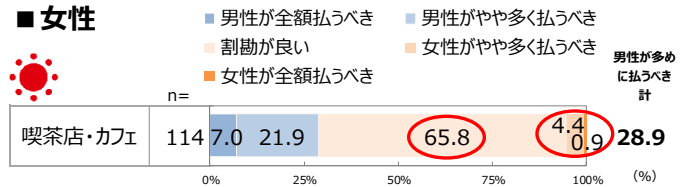
※男性が多めに払うべき 計=「男性が全額払うべき」+「男性がやや多く払うべき」

- ◆ デート場所ごとに支払い割合の考え方を男女別に聞いたところ、“飲食”に関わる場所では男性は“男性が多めに払うべき”としています。男性は食事量が女性に比べ多いことによる申し訳なさや、男性が払うものという風潮から負担しなければならないという思いがあると自由回答で散見されました。
- ◆ 一方、女性は「割勘が良い」との考え方が半数となっており、男性に比べて“男性が多めに払うべき”との考えが低くなっています。このことから男性に比べて女性は割勘に寛容であることがわかります。
- ◆ 男性はランチとディナーで支払う割合についての考え方に顕著な差は見られませんが、女性はディナーではランチに比べて男性に多めに払ってほしいと考えています。ディナーはランチに比べて価格が高いことや、男性に少し頼りたい、かっこつけてほしいとの思いがあるのではないかと推察しました。

■男性



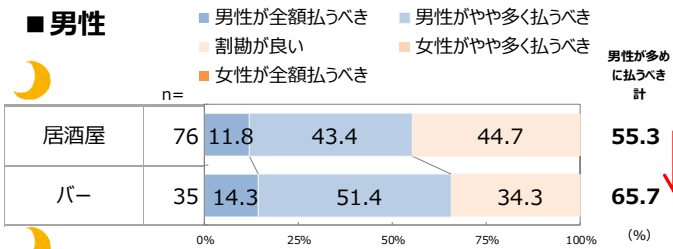
■女性



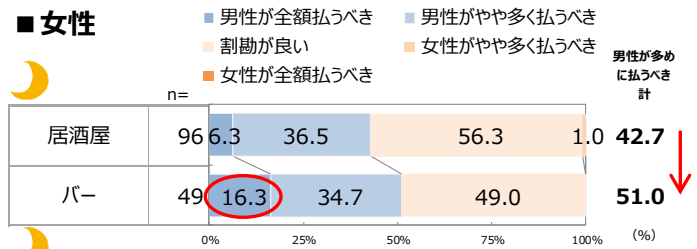
※男性が多めに払うべき 計=「男性が全額払うべき」+「男性がやや多く払うべき」

- ◆ 女性は喫茶店・カフェでは割勘が良いが6割半ばで他所と比べて高くなっています。また、“女性が多めに払うべき”と考えている人が20人に1人とわずかであるものの存在しています。これは、カフェ等は価格が低いことから、他所で男性に多く支払ってもらったお返しのお気持ちから払いたいと思う、との意見が見られました。

■男性



■女性



※男性が多めに払うべき 計=「男性が全額払うべき」+「男性がやや多く払うべき」

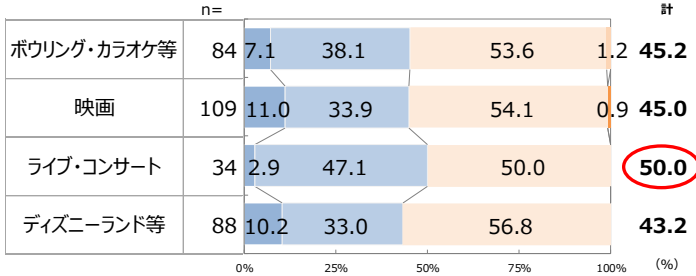
- ◆ 男女ともにバーは居酒屋に比べて男性が多めに払うべきと考えられています。また、女性は「男性が全額払うべき」が16.3%で飲食店の中で最多となっています。居酒屋に比べてオシャレなバーでは男性の頑張りどころのようです。

●デート場所別 支払いについての考え方「遊び」

“遊び”に関しては「割り勘が良い」が多く、女性の方がその考えが強い

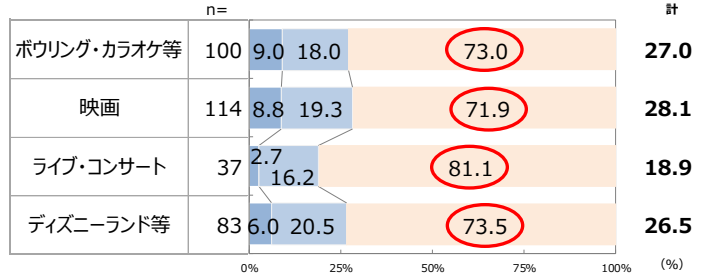
■男性

■男性が全額払うべき
■男性がやや多く払うべき
■女性が全額払うべき
■女性がやや多く払うべき



■女性

■男性が全額払うべき
■男性がやや多く払うべき
■女性が全額払うべき
■女性がやや多く払うべき



※男性が多めに払うべき 計=「男性が全額払うべき」+「男性がやや多く払うべき」



- ◆ デート内容が“遊び”になると“飲食”に比べて男女ともに「割り勘が良い」が高くなっています。特に女性は割り勘が良いとの声は7割以上を占めており、男性を上回ります。男性にお金を支払ってもらうことで申し訳なさや気まずさを感じ、本気で楽しめないといった考えが自由回答にて目立っていました。
- ◆ ライブ・コンサートに関して男女で考え方が最も大きく乖離していることから、良かれと思って男性が多めに払っていても女性にとってはありがた迷惑に感じられている可能性があります。

- ◆ 遊びの際の会計について自由回答からいくつか抜粋しました。遊園地での入場代やライブのチケット代は割り勘にし、中での食事では男性が支払うと上手いきそうです。

喫茶店やゲームセンターの様な場所では多く払ってもいいが、テーマパークなどの料金が割高の場所は彼女も普段より多めに払ってほしい
(男性/社会人20代前半)

テーマパーク内での食事関係は、彼に払って欲しい。普段の食費は、割り勘がいい
(女性/学生)

映画やライブなど、1人でも楽しめるようなものは、割り勘で支払いをしている。ライブなどは高額なこともあるため、割り勘のほうが気兼ねなく楽しめる
(女性/20代前半)

食事やアクティビティの費用は基本的に男である自分が全額出すつもりでいるが、いつも彼女に最低でも3割払いたいと言われる
(男性/社会人20代後半)



デートをする際は大体、8:2か7:3(男:女)で支払うが、高いお店やチケット代などは割り勘にして欲しい。
(女性/学生)

● 割勘に関する考え方 自由回答抜粋

- 現在の支払い割合について、割勘推奨派が多かったことから、割勘推奨派の意見を抜粋しました。男性は「男性が多めに払うもの」という風潮に悩まされている方が多いようです。女性は男性に払ってもらうことに「申し訳ない」と感じているとの意見が散見されました。



男性が年上

彼女が誘ってきてくれるため彼女の行きたいところにつき合う。そのためランチは彼女が多く払う

女性と同年

男が多めに払うのが当たり前、周りはみんなそう、お金を払ってくれないと大事にされている気がしないとされるのが不満

男性が年上

いくら交際関係にあるからと言って奢ってもらうのは申し訳ないので、割り勘が丁度良いと思っている

男性と同年

同年なので基本的に割り勘で気持ちが楽。それでも時折奢ってくれて嬉しい

学生

男性が年上

もう少し相手の払う額を増やしてもらいたい。特に車を出す時は彼女も気を遣って普段より多めに払うなどしてほしい

女性と同年

不満な点は男性が多く払う風潮がある点、場所によってはそのようにするのが当たり前になっていることがおかしいと思う

男性が年上

基本的には外食時のお代を相手が払ってくれるので満足。ただ申し訳ない気持ちになるのももう少し自分が出す機会も欲しい

男性と同年

自分の物は自分で払う。男女関係ない。会計時に細かくお金について言ってくる人は無理

社会人(20代前半)

男性が年上

私が多く払おうとしているが、彼女が何かと理由をつけてきちんと半分に割り勘してくれている。金銭的にとても助かる

女性と同年

男性の方が収入があると思うので多少は仕方ないが、自分がかかり多めに払っているのが不満。たまには払ってほしい

男性が年上

ほとんどのお会計を待ってくれるのは大変ありがたいが、自分もお金を出さないと100%で楽しめないように思うので払いたい

男性と同年

奢ってもらうと申し訳なくなるから相手が誰であれ、物、ご飯、カラオケ、何処であろうか何であろうか割り勘が良い

社会人(20代後半)

まとめ

◎「男性が全額払うべき」は少数派の意見

今回の調査により、女性はデートでお金を出すことに関して抵抗が少ないことがわかりました。男性が全額払うべきとの考えは多くのシーンで1割前後となっており、予想していたよりも遥かに低い数値でした。全額出さないまでも男性が多めに払うべき、と男性は思っているものの、多くの女性は割勘が良いと考えていることは意外でした。お金は男性が払うものという風潮は薄れてきているようです。

◎時間帯による意識の差

支払いに対する意識は時間帯によって差があることもわかりました。現在の若者は男性が全額払うべきとの考えはほとんどなく、お昼の時間帯であれば女性も支払ってよいとの思いがあるため、男性は割勘を提案しやすいはず。割勘を提案することで1回のデートでかかる男性の負担は少なくなり、デートに誘いやすくなります。もしくは、男性はお昼で浮いたお金を夜に回して普段より少し頑張ってみるのも良いのではないのでしょうか。